
夢のかけら

羽

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢のかけら

【Nコード】

N2929A

【作者名】

羽

【あらすじ】

双子姉妹の姉麻奈を中心とした物語。なんでもよく出来る妹沙奈。。。それに対してどんなに頑張っても自分はダメなんだと思いつく麻奈。。仲が良かったはずの二人の絆が、少しずつ狂い始め距離が出来てしまう。。。

ブローグ

「きゃー！双子ってかわいいー！二人ともお人形さんみたい！」

子供の頃、会う人みんなが私達二人を見て、口を揃えて言う言葉がコレだった。

自分で言うのもなんだが小さい頃の写真をみると、同じ顔の私達二人はとても愛らしく可愛い。

5冊以上に渡る小さい頃のアルバムの中のほとんどが、私達二人が寄り添って遊んでる所や、寝ている所、そして二人して同じ姿で泣いている所など、所狭しと写真が貼ってある。

このアルバムを開ける度・・・なぜ子供の時のように仲良く過ごせなかったのか・・・と胸が苦しくなってきたまらない・・・。

私をもっと大人だったら・・・今と違う未来が在ったかもしれないのに・・・。

「オ、オツツツツギヤー」

私達二人が生を受けたのは太陽の光が激しい夏の夜・・・。

この年は例年に比べとても暑かったらしく、「時間は掛るわ、汗だくだわで本当に大変だったんだから」と母は言っていた。

そして無事、五体満足でなんの問題もなく父と母に抱かれ家に帰ってきたその日から、今井家はとても騒がしくなったのは言うまでもない・・・

昔のことを聞くと・・・

「毎日が戦争だったよ・・・」
と両親が声を合わせて言っていた。

特に私達二人は同じに何かするということが多かったらしく、お腹すくのも夜鳴きするのも一緒だったらしい。

そして、驚いたのがハイハイした日も同じなら、歩いた日も話し出した日も同じだったということ・・・

どこに行くにも一緒に・・・まるで映し鏡のような私達二人・・・

一応、一瞬だが先に生まれた私が姉ということになっている。
名前は、両親の名前を一文子ずつ取り決めたらしい。

父の名前が正彦^{マサヒコ}、そして母が七奈^{ナナ}なので、
先に生まれた私が今井 麻奈^{マナ}となり、妹が沙奈^{サナ}となった。

名前も似てるなら外見も似てるものだから、他人だけでなく親でさえもよく間違えてたっけな。。

親でさえ間違えるほどなので、他人は全く区別がしにくかったらしく、そんな私達を区別するため幼稚園くらいの時に髪を切られた・
・お姉ちゃんだから良いよね・・・・と。

泣きながらもなんとか納得したが、本当は長い髪が良かったんだよね・・・

その頃大人気だった漫画の主人公が、髪の毛が長くてとても可愛く、私達二人の憧れだったからなんだけどさ。

それからはずっとショートカットが定番となり、今でも伸ばしていない・・・・長いといういろいろ面倒臭いしね・・・・

この頃からだったか、段々と私達二人は周りから比べられるようになっていった。

愛想がよく人懐っこい妹が、誰からもよく可愛がられていくようになり、私はどちらかと言うと人見知りをする方だったので、いつも母の後ろに隠れたりすることが多かった。

そして小学校中学年くらいから、私達の評価は特に開くようになって・・・

習い始めたピアノも水泳もその他のお稽古事も、最初は私が何でもできるのに、少しすると妹は駆け足で私を追い抜いて行く・・・

何でも出来、よく誉められる妹・・・

誇らしい気持ちと共に、すごい嫉妬を感じるようになっていった．．．

そんな嫉妬心からか、少しずつ距離を開けたのは私の方だった。今までほとんど一緒に行動していた私達だったけれど、一緒にいれはいるほど出来の良い妹と比べられては、「お姉ちゃんも頑張ろうね」と言われるのがとても嫌だった。

母と話し、習い事も興味ないものはすべて止めさせてもらい、一人でいることが増えて少し気持ちが楽になっている私がいた。

そして中学に入り少したった頃、ある劇団に入っていた私達二人は、ミュージカルのオーディションを受けることとなった。

最初は気が引けたが、やはり母の影響か、舞台というものに興味を感じ始めていた。

母は歌手としてデビューしそこそ売れていたのだが、ひよんな事から舞台を一度経験してからは、私達が生まれるまでずっとそつちの世界で活躍していた人だ。

それに、私が唯一妹に引けを取らないとしたら、ピアノが歌くらいのものだったし、やるからにはなんとしても受かりたかった．．．

何か一つでも妹より上回り」「すごいね!」「って言われたかったんだと思う……。」

オーディション

そしてオーディション当日・・・

緊張のためか眠りが浅かった私は朝早くから準備を始め、何回・いや何十回、鏡と格闘したことか・・・。

緊張と不安が入り混じり慌しい私を横目に、私より遅く起きたはずの沙奈は淡々と用意をすませ、準備万端といった感じで雑誌を読んでいる・・・。

また、その余裕が腹立たしいが、時間も迫っていたので私も用意をすませ、沙奈と二人でオーディション会場のビルへと向かうことにした。

オーディション会場に到着すると私の緊張はさらに加速し、この短い人生の中で一番ではないかと言うほどに心臓の音が鳴り響く・・・。

7

（こんなに緊張していて上手くできるかな・・・うん、絶対大丈夫！あんだけ練習したんだから・・・うん、とりあえず気持ちを落ち着かそう・・・）

そう思った私は目を瞑り深呼吸を何回も繰り返す。

そんな私の横から、

「ふわアア」

と言う声が聞こえたので、目を開き横の沙奈に目をやると、口に手を当て大きなアクビをしている・・・。そしてアクビを終えた沙奈と目が合うと、エヘッといった感じに微笑んだ。

この余裕が腹立たしくも羨ましい……。

オーディションの時間が近づくにつれ、会場の中は人で溢れていた。

大きな舞台ではないとはいえ、主役選考ともなるとやはりすごいものだ……。

これだけの中から主役として選ばれるものはたった1人だけ、この人数からするとかなりの倍率である。

でも、正直自信も少しはあった。

この日のために妹や劇団の人と練習していた以外にも私は影でかなり練習を積んでいたし、最後の数週間はほとんどの時間をこの練習に費やしたから……。

ここまで何かに没頭し努力したのは始めてかもしれない。

だって、どうしても、

沙奈の上に行く役を取りたかったから……。

少し時間も過ぎたあたりで、審査員らしき人達数人が会場へと入ってきた。

そして各々の席に着くと、その中の若い男の人がオーディションの説明を話した。

説明内容はというと・・・

まず、私達受験者が書類審査合格時に送られてきた番号札順に呼ばれる。

呼ばれた人は簡単な自己紹介と審査員の質問に答え、それが終わったら一次審査の課題である歌を歌たってその人は終わり。

全員が終わったら一次審査の合格者発表をし、合格者のみ二次審査の演技へと移るという事だ。

説明を話し終わると、何か質問があるかどうかを確認し、そして番号札一番の人から名前を呼ばれ一次審査が始まった。

それと同時に、少し落ち着きを取り戻していた私の心臓の音が、また早くなつていくのがはつきりと分かった。

周りの子達も緊張した面持ちで、今やっている子を見つめている。

そして私より前の番号だった、沙奈の出番がやってきた。

「次、37番今井 沙奈さん」

「はい！よろしく願います。」

沙奈もやはり緊張しているのか、返事の声が少し震えてるように感じた。

でもさすがと言うべきか、自己紹介を終えた時には落ち着きを取り戻したらしく、いつもの愛想がよく可愛い沙奈に戻って審査員の質問の受け答えをしている。

そして歌いだした瞬間、審査員の目の色が変わったのがすぐ分かった。

それもそのはず、他の子たちと比べると抜群に上手い！

この沙奈の歌を聞いて戦意喪失した子はかなりいただろうな……。いつも聞いている私でさえ、この歌声には聞き入ってしまうんだから。

歌も終わり挨拶を済ませると、私に「もう、すごい緊張した」と小声で言つと、私の横へと腰を下ろした。
そして、とうとう私の出番がやってくる……

「え」と、38番今井 麻奈さん

「はい！」

「がんばって」

その沙奈の声に、私は軽く頷くと（絶対受かってやるんだ）そう心に言い聞かせながら、

私は握りこぶしを強く握り前へと歩き出した……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2929a/>

夢のかけら

2010年10月10日00時33分発行